

牛の異常産について

流産、早産、死産、体形異常などを主徴とする「牛の異常産」は、細菌、ウイルス、栄養障害など様々な原因で発生します。中でも、蚊やヌカカが媒介するアカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病による異常産は、時に大規模な発生となり、経済的な損失が大きいと言われています。牛の異常産は全国で散発しており、熊本県でも2013年及び2019年に牛のアカバネ病が、加えて2019年にはピートンウイルスの関与が疑われる牛の異常産が発生しました。2022年の県内における抗体保有状況調査では、**アカバネウイルスの流行が示唆**されました。異常産を引き起こすこれら4つの疾病は、ワクチンを接種することで予防できますので、母牛にワクチンを毎年接種し、農場及び地域全体の抗体保有率を高めることが重要です。

牛に異常産を引き起こすウイルス感染症の症状とワクチンによる予防

疾病名	アカバネ病	アイノウイルス感染症	ピートンウイルスの関与を疑う異常産	チュウザン病
発生時期	夏～翌年春			秋～翌年春
臨床症状				
	水無脳症（大脳欠損や小脳欠損）			
	<ul style="list-style-type: none"> ・流産・早産・死産 ・体形異常（脊柱のわん曲等） ・起立困難 ・盲目等の神経症状 			<ul style="list-style-type: none"> ・虚弱、盲目、起立不能 ・体形異常はない
ワクチン	異常産3種混合ワクチン（アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症） 異常産4種混合ワクチン（上記＋ピートンウイルスの関与を疑う異常産）			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルスを媒介する吸血昆虫（蚊やヌカカ）が活発化する前に接種する。 ・未経産牛及び前年度未接種の牛には、4週間隔で2回、筋肉内に接種する。 ・前年度に接種経験のある牛には、1回、筋肉内に接種する。 			

上記のワクチンで予防できる異常産ウイルス以外にも、異常産の原因があるため異常産がみられた場合には、家保にご連絡ください。

イノシシにおける豚熱陽性情報

令和3年3月に、九州に最も近い山口県でイノシシにおける豚熱の感染が確認されました。本県においても野生イノシシにおける豚熱浸潤状況を確認するための検査を積極的に実施し、猟友会の協力のもと年間300頭以上を検査し、これまで陰性を確認しています。

直近1ヵ月でも、島根県2頭、広島県3頭、山口県8頭と中国地方で徐々に増えています。

今後、飼養豚に対するワクチン接種が本県で開始される場合に備えて、接種計画や必要資材等の準備を早急に進めています。



豚熱感染野生イノシシ発見地点マップの一部 (R5.2.8時点)

茨城県の関連農場における鳥インフルエンザ防疫措置が終了しました

茨城県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認を受け、令和5年2月2日午前10時に天草市の関連農場において発生農場からの導入鶏の殺処分を開始し、午後0時11分に全ての防疫措置を完了しました。また、2月19日に当該農場からの家さんの移動制限も解除されました。

1 措置内容

導入鶏64羽の殺処分、敷料等の焼却、施設の消毒

2 移動制限の解除

農場内の家さん（疫学関連家さん）については、防疫措置終了後14日を経過した後に実施する検査結果の陰性をもって農場からの移動制限を解除

※天草市の農場では鳥インフルエンザは発生していないため、移動制限区域及び搬出制限区域は設定されていません。

近隣諸国における越境性家畜伝染病の発生情報

病名	型	発生地 (国)	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	韓国	肉用鶏 (2件)	令和5年1月11日、2月27日
			ウズラ	令和5年2月21日
			採卵鶏 (2件)	令和5年2月21日、2月23日
			地鶏 (2件)	令和5年2月21日、2月23日
		台湾	家さん	令和5年2月
	H5N2	台湾	家さん	令和5年2月
アフリカ豚熱		ロシア	野生いのしし	令和5年1月2日
		韓国	豚	令和5年2月11日
			野生いのしし (68件)	令和5年1月~2月

令和5年(2023年)3月1日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

